



■ 令和7年度試験研究がスタート

本年4月、私も含め5名のスタッフが入れ替わり、新体制でスタートしました。

本年度も引き続き、「和歌山県森林・林業“新”総合戦略」に基づき、「『もうかる林業』林業・木材産業の成長産業化」や「多様で健全な森林づくり」を目指し、

- ・低コスト林業推進技術
- ・健全な森林づくり技術
- ・紀州材の需要拡大のための利用、加工技術
- ・特用林産物の安定生産技術

の4つを重点事項として試験研究や技術開発に取り組んでまいります。

また、新たに2課題が農林水産業競争力アップ技術開発事業に採択され、試験研究に着手しております。（後述）

- ◇引き続き当面各部、中辺路試験地において、
- ◇新たな獣害防除技術など持続可能な森林管理手法の開発、クマノザクラや無花粉スギなど有用遺伝資源の保存と新品種の開発
- ◇中大径材に適した利用、加工技術の開発など紀州材を活用した建築資材等の開発
- ◇サカキの平坦地栽培や河川水を利用したワサビ栽培技術の開発、アセビの収穫・栽培技術の検討やイタドリの長期栽培技術の確立等

気候変動等に対応した適応技術、持続可能な省力化安定生産に向けた研究を進め、林業事業体の多角経営や林業従事者の収入増に繋がる山村資源の新たな活用など「活力ある山村づくり」を進める研究を行ってまいります。

今後も林業・木材業関係者、生産者などのニーズを的確に把握し、職員一同多方面にアンテナをより高くし「地域と業界に頼られ、必要とされる林業試験場」を目指します。

本年度もご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

（場長 佐野 豊）



イタドリの研究成果を普及活動中の佐野場長と坂口副場長（H28、日高川町）

■ 令和7年度の新たな研究課題

（2課題）

◆建築資材メタルラスを用いた獣害

防除技術の開発(R7～9)

造林時、獣害対策の経済的負担が大きいため、鉄製のメタルラスを用いた低コストな苗木の単木防護技術を開発します。シカなどの食害防除効果を判定するとともに、地形や地質等、様々な条件において簡易に設置する方法と、その管理方法を明らかにします。より環境負荷の少ない技術の開発を目指します。（法眼）



◆和歌山県産無花粉スギ次世代

優良品種の創出(R7～9)

県内の人工林は本格的な利用期を迎えていますが、同時に国民病とも言われる花粉症の対策として花粉の少ないスギの品種の開発が喫緊の課題となっています。このため、優れた材質を持つ和歌山県の精英樹と富山不稔系無花粉スギを親にもつ個体の中から優良な個体を選抜し、和歌山県の気候に合う花粉症対策品種登録を目指します。（山下^桃）



◆経営環境部

新免 哲則 : 部長

法眼 利幸 : 獣害・病虫害対策

山下 由美子 : 育林・林業経営

山下 桃子 : 育種・林業機械

鈴木 大輔 : 苗畑管理・施設管理・研究補助

加世田 匠 : 育種・病虫害対策・森林環境

＜中辺路試験地＞

松村 彰文 : 種苗生産

西原 康人 : 育種・種苗生産

◆木材利用部

山裾 伸浩 : 部 長
坂本 淳 : 庶務担当 林業普及指導員
松久保 康輔 : 木材強度・木質バイオマス
粟田 香名子 : 木材加工・保存・乾燥

【トピックス】

当部では、かねてから予備試験的に進めてきたヒノキの横架材利用に向けた性能評価について、本年度



から本格的に取り組んでまいります。

また、昨年度に引き続いて紀州材の割れと強度性能に関する調査や、簡易型強度測定器を用いた原木段階での強度性能評価を実施するとともに、太陽熱を利用した木材乾燥技術に関して、民間事業体との連携による試験を進めていきたいと考えています。（山裾）

◆特用林産部

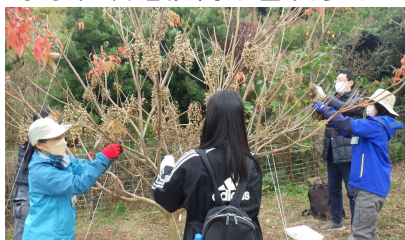
坂口 和昭 : 部 長
田中 作治 : 花木の栽培管理、紀州備長炭
杉本 小夜 : 山菜、きのこ、木の実

【トピックス】

ブドウハゼは、明治～大正時代に和ろうそくやびん付け油の原材料として最盛期を迎え、その後衰退しましたが、近年、天然素材の良さが見直されて需要が高まっています。

当場では、接ぎ木技術の開発と合わせ、低木仕立てによる実の収穫調査を行ってきました。接ぎ木苗定植2年目に初収穫となり、4年目からは収穫量が大きく伸びはじめ6年目には平均11.3kg/本、1本当たりの最大収穫量は19.3kgとなり、栽培技術を普及する目途がつかまりました。

県内ではブドウハゼ栽培者等で構成される



「チームZENKICHI」やりら創造芸術高等学校を中心に、栽培地の拡大や化粧品「キノミノリ」の開発など、木蠟産業の復活へ向けた取り組みが進んでいます。（坂口）

～ 中辺路試験地だより ～

当試験地では、母樹同士の確実な交配と種子採取までの期間を短縮することを目的に、令和4年度にスギ特定母樹閉鎖型採種園（ビニールハウス）を2棟設置しました。

本年度に初めて種子採種を行う予定ですが、6月に結実調査を行ったところ系統によるバラツキが確認されました。この原因を明らかにすることで、優良種子の生産につなげたいと考えています。（松村）



【新たなスタッフ】

3名が配属されました。よろしくお願いいたします。

◎主任研究員 杉本 小夜
・特用林産部

2年ぶりの研究員で、生産者団体と連携を図り研究に取り組んでいます。



◎副主任研究員 松村 彰文
・中辺路試験地

研究員は初めてで、優良種苗の生産に取り組んでいます。



◎研究員 加世田 匠
・経営環境部

林業の経験は初めてで、時間があれば場内の樹木の名称や特徴を学んでいます。



編集・発行 和歌山県林業試験場
〒649-2103 西牟婁郡上富田町生馬 1504-1
TEL : 0739-47-2468 FAX : 0739-47-4116
<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070100/070109/gaiyou/006/>

※「やまびこ通信」は「和歌山県林業試験場のホームページ」にもアップしています。